



2025年3月期 第3四半期 決算説明資料

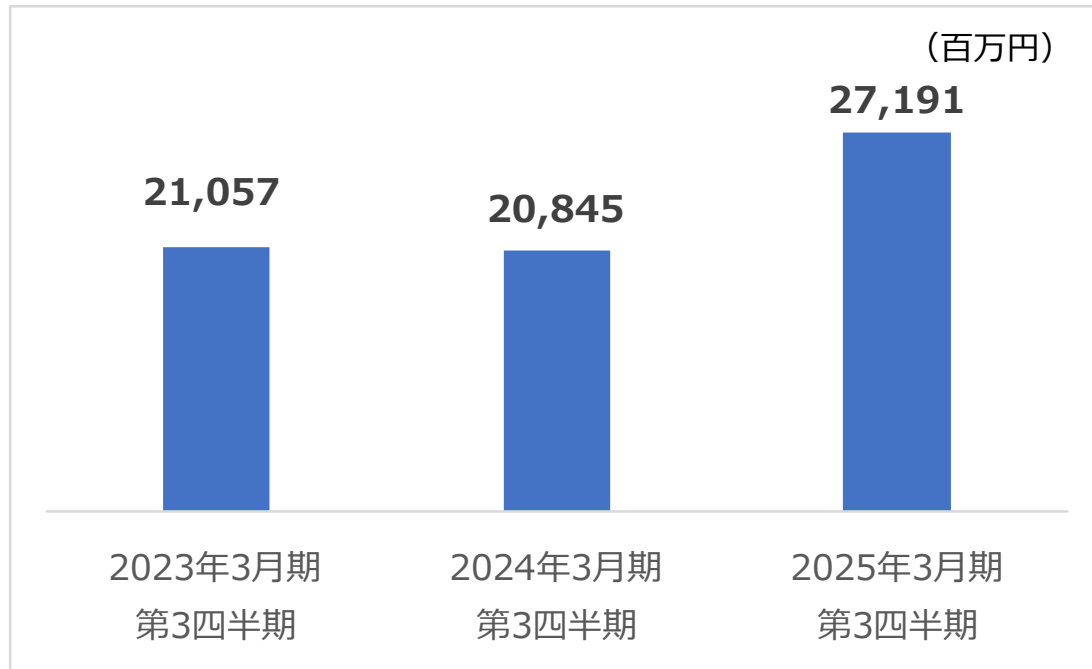
2025年2月14日

株式会社日本ピグメントホールディングス

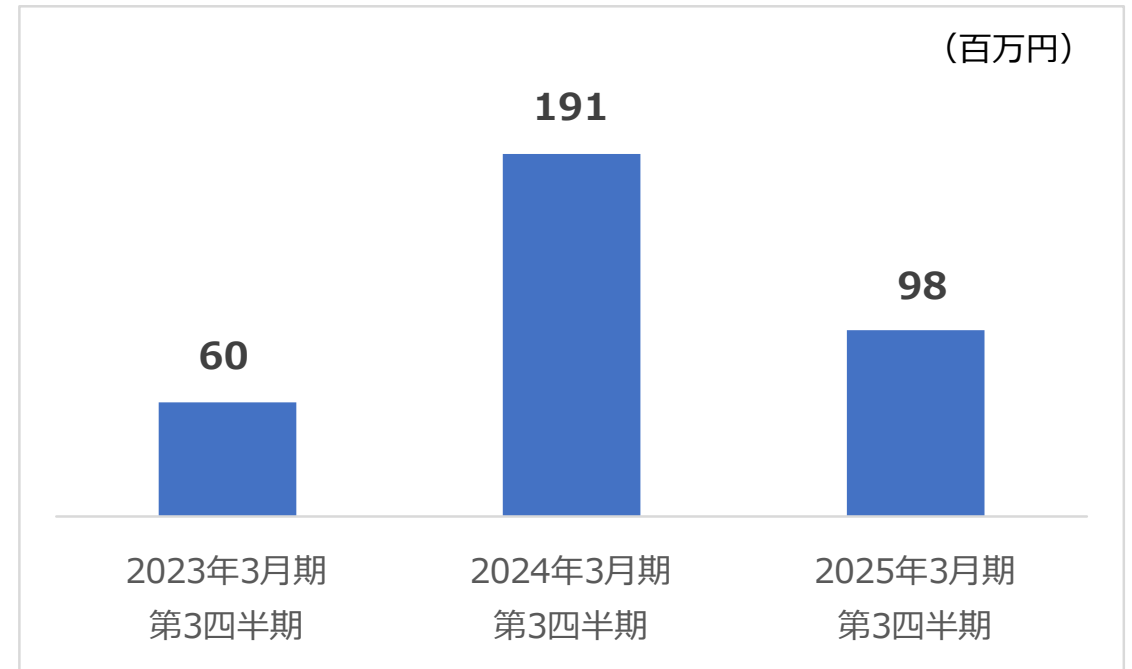
売上高は、連結対象範囲の拡大により増加

営業利益は、国内の受注が当初計画を下回ったことを主因に減益。経営統合に係る一時費用も増加

売上高

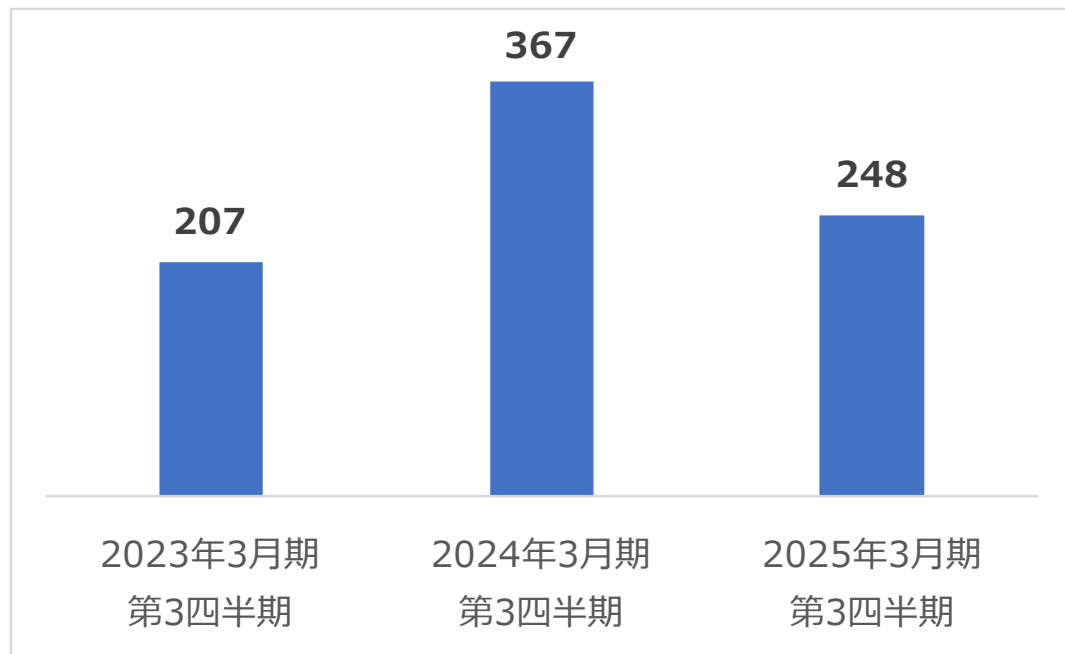


営業利益

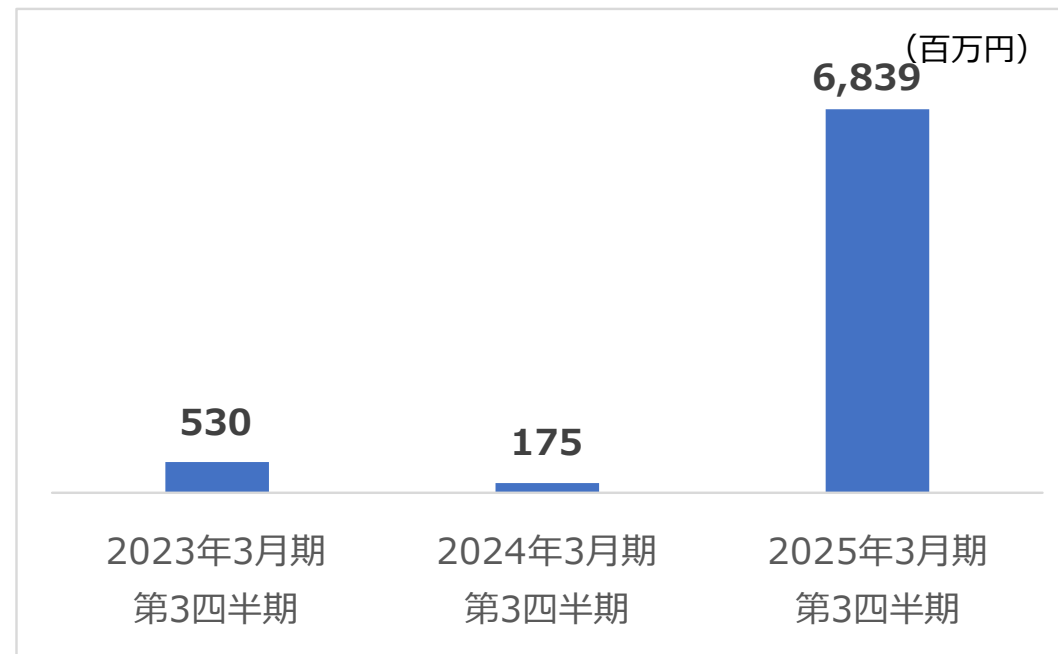


経常利益は前年同期比で減益
親会社株主に帰属する四半期純利益は、PLASiST（旧住化カラー株式会社）の株式取得に伴う負ののれん発生益により大きく増加

経常利益



親会社株主に 帰属する 四半期純利益



2025年3月期 第3四半期業績 地域別のポイント

① 日本

- ・樹脂コンパウンドは、第2四半期以降の自動車生産の回復はあったものの計画を下回ったこと、エンジニアリングプラスチックについて電子材料向けなどの需要伸び悩みもあり、売上が減少
- ・樹脂用着色剤はこれまで底堅く推移してきた飲料向け用途の需要減、電子機器向け等のフィルム用途の需要の伸び悩みなどもあり売上、粗利は減少
- ・加工カラーは液晶パネル向け販売が堅調に推移したことにより、前年を上回る実績を維持

② アジア

- ・インドネシアは、国内自動車販売の低迷を受けた受注のマイナス影響などもあり売上は前年比減少
- ・マレーシアは中国経済の減速影響等はあったものの、前年同期並みの売上を確保

③ 中国



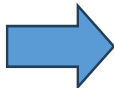
- ・日系自動車メーカー各社の販売低迷などを受け、日系各社からの受注は極めて低位に推移。売上は大幅に減少
- ・また、これまで堅調に推移してきた中国メーカー向け販売も、計画をやや下回る推移

2025年3月期 通期連結業績予想の修正について

(百万円)

	2025年3月期 前回発表予想	修正予想	増減額	増減比
売上高	42,000	38,200	▲ 3,800	▲ 9.0%
営業利益	450	200	▲ 250	▲ 55.6%
売上高営業利益率	1.1%	0.5%	—	—
経常利益	600	350	▲ 250	▲ 41.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	7,000	6,750	▲ 250	▲ 3.6%
1株あたり当期純利益 (円)	4,459.67	4,300.43	—	—

【セグメント別の動向】

日本			東南アジア		中国	
樹脂コンパウンド	樹脂用着色剤	加工カラー	インドネシア	マレーシア	日系	地場
						

中国法人清算に伴う債権放棄について

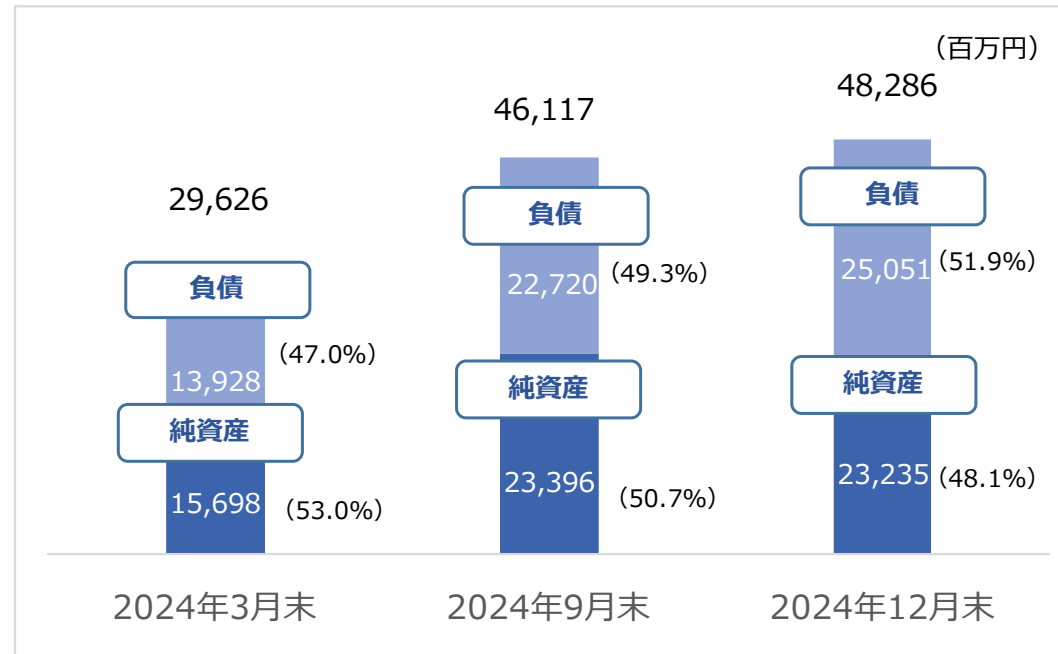
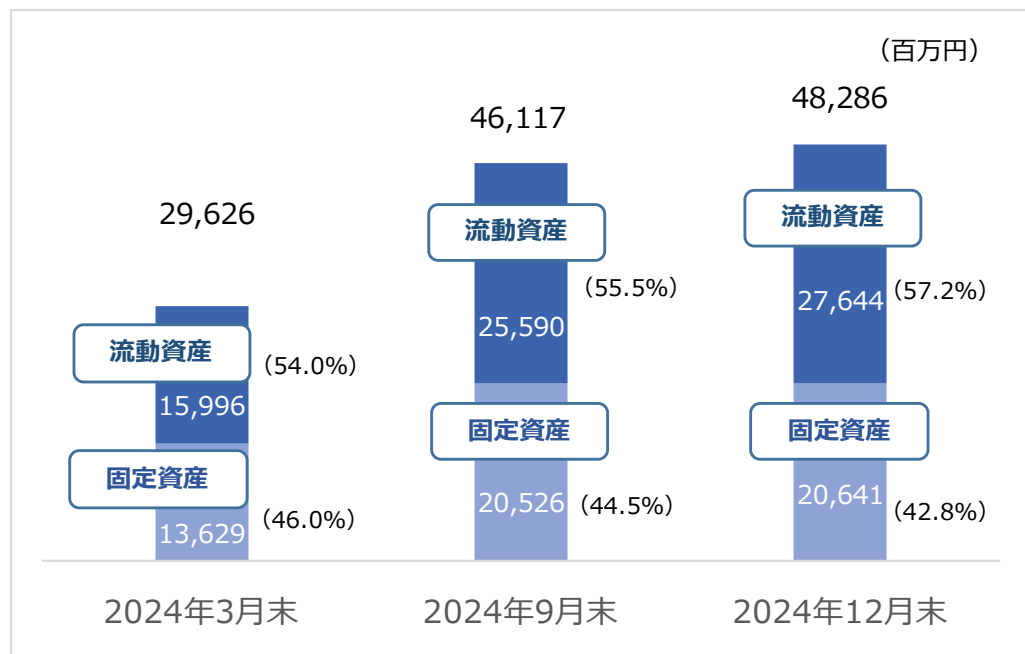
当社の連結子会社である天津碧美特工程塑料有限公司は昨年解散を決議し、現在清算作業を行っております。今般、清算に向けた手続きの一環として、当社の同社に対する債権の放棄を決議しました。

【放棄する債権の内容】

(1) 債権の種類	貸付金、未収入金
(2) 債権の金額	733百万円

【業績に与える影響】

当社の個別決算には特別損失を計上しておりますが、連結決算においては当該債権放棄に係る損失は決算上相殺消去されるため、当期の連結業績への影響はありません。



【主な変化の要因】

資産

- 現金・預金の増加
- 受取手形および売掛金の増加

負債

- 支払手形、買掛金の増加
- 借入金の増加

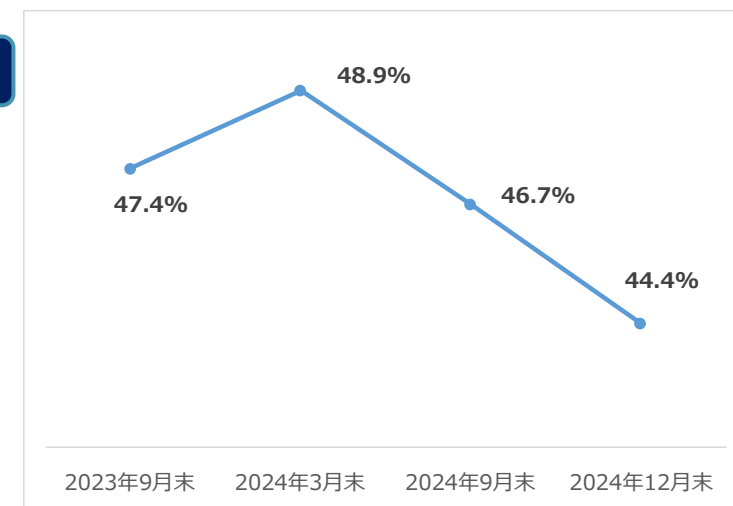
純資産

- 為替換算調整勘定の減少

D/Eレシオ

0.29 (2024年9月末 0.26)

自己資本比率



連結損益計算書の概況



	24年3月期	第3四半期	25年3月期	第3四半期	(百万円) 増減率
売上高		20,845		27,191	30.4%
売上総利益		2,675		3,919	46.5%
販管費計		2,483		3,820	53.8%
営業利益		191		98	▲ 48.7%
営業外収益計		245		256	4.5%
営業外費用計		69		106	52.6%
経常利益		367		248	▲ 32.4%
特別利益計		16		6,824	-
特別損失計		1		323	-
税金等調整前四半期利益		383		6,749	-
法人税等計		142		▲ 135	-
当期純利益		241		6,885	-
親会社株主に帰属する当期純利益		175		6,839	-

- 米国の関税引き上げがアジア地域に与える影響を見極めの要
特に、国内では自動車生産に与える影響、海外では低迷傾向にある中国経済の動向に引き続き留意

日本

- 自動車向け需要は、引き続き底堅い推移を見込むも、その他樹脂需要全体の回復には不透明感が残存
また、製造関連コストの低下は見込み難いことから、グループ全体で生産効率向上に向けた施策を推進
 - ・ 樹脂コンパウンド部門は、効率的な運営を志向
 - ・ 樹脂用着色剤部門は、引き続き幅広い用途での販売増を目指す
 - ・ 加工カラー部門は、国内建材向け等の需要は弱含み推移の可能性。一方、大型パネル用途向け需要は堅調推移を見込む

東南アジア

- 中国経済動向に不透明感、東南アジア各国の自動車販売減速などのマイナス要因に留意しつつグループ一体での営業強化による販売拡大を企図

中国

- 日系向け販売の回復は当面見込めず、中国地場メーカー向け販売を強化

○ 2025年3月期の実績

拡大した製品ラインナップの活用

- 来期の実績化を目指し活動活発化

生産効率化の推進最適な生産体制の実現

- 中国
天津碧美特工程塑料有限公司を解散
- 国内
来期の実行に向け、計画・策定

新規領域でのスピード感ある上市体制の構築

- 両社の開発部門の協業体制構築
-人事交流を開始（来期から交流対象を拡大）
- 半導体向け等の金属材料の上市
SuNPiD商標を新規登録
2025年1月【第39回 ネプコンジャパン2025】への出展

PLASiSTとの経営統合によって目指すもの～シナジー効果

●中長期的施策を実現するためのPMIの進捗状況について



生産



営業・購買



研究開発



品質保証

コスト削減、合理化

- 生産拠点の合理化検討に着手
- 外注コスト削減策の立案
- 副資材や消耗品費の削減、購入合理化の推進
⇒下期より具体化
- 一体的な購買体制の構築に向けた検討を開始
- 輸送、保管コスト削減案を策定中
⇒下期より具体化

- 両社の検討リソースを集約し、設計開発を統合 (液体系・樹脂系領域)

製品の品質・安全保証の双方改善

- 別の視点からの気づきや得られた有効な方法を互いに取り込む目的で、両社間の相互監査を2025年度より開始することで計画中
- 化学品管理システムの統合化(2025年～)

ビジネス基盤の強化

新たな取り組み

次世代型生産体制の推進

- DX, IoT関連 (現行使用のノーコードツールや材料照合システムの両社活用を模索、次世代型の業務設計を推進)

新規領域開拓 (時期中計にて具体化)

- 新規顧客獲得、販路拡大を目指した計画を策定
- 半導体/電子材料用途で期待される先端素材を用いた液体分散体等の新規開発～製品化を推進
既存検討体制の更新による新規テーマの推進を加速化

2027年度の営業利益目標達成へ

- 本資料は、投資家の皆様に会社内容の理解を深めていただくための資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません
- 記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び当社が合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません
また、実際の業績等は様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります



株式会社日本ピグメントホールディングス

日本ピグメント株式会社

株式会社 PLASiST